

第40回学会記念大会開催にあたって

～ レジャー・レクリエーションに関するメモリーの書き換えと、その「上書き保存」を求めて～

日本レジャー・レクリエーション学会 (JSLRS)

会 長 鈴 木 秀 雄

関東学院大学教授、Ph. D.

この度、学会は第40回を記念大会として現理事長が所属される東京農業大学のご協力を得ての開催の運びとなりました。

記念大会では、大会のキーワードを「地域連携」に置き、地域内連携（区民、大学、企業と行政の連携）、地域間連携（都市と農村、源流と下流域）など対象・空間・関係主体を拡大しつつ、豊かな地域づくりや環境問題の解決に「レジャー・レクリエーション」が果たす役割や今後の期待はどのようなものであるかについて、多角的な視点から議論が進められます。

記念大会の概要（詳細は、第40回学会大会開催要項をご参照ください）は以下のとおりです。

第1日目（11月26日金曜日）：◆「**地域研究**」テーマ；世田谷区における緑のまちづくりと多様な主体との連携

第2日目（11月27日土曜日）：◆シンポジウムでは、「**基調講演**」を、多摩川源流大学の創設者である宮林茂幸教授（東京農業大学地域環境科学部長、山村再生支援センター長）にお願いし、続いて「**パネルディスカッション**」では、小出仁志氏（(財)世田谷トラストまちづくり）、矢野加奈子氏（東京農業大学源流大学（GP）事務室）、木俣知大氏（国土緑化推進機構、山村再生支援センター）、鎌田真光氏（雲南市立身体教育医学研究所研究員）の4名の方々から、それぞれの連携活動と課題・問題点等をおうかがいし、基調講演の宮林先生にも加わっていただき、地域連携におけるレジャー・レクリエーションの役割、担い手の養成、連携継続の条件、財団やNPOなど「新しい公共」の可能性などを議論

また、◆第40回記念大会企画では、「**学会賞表彰式**」において「貢献賞」（当学会の発展に多大な貢献をされてこられた方を平成19年度に制定された学会賞表彰規程にもとづき今回表彰するもの）の表彰が行われ、それに続く**特別セッション**「**学会の歩み～今までとこれから～**」では、同受賞者によるショートスピーチ、今回、歩みの第2集でもあり、15年ぶりに編集・刊行された「日本レジャー・レクリエーション学会の歩み—1995～2010—」の紹介後、現会長による**今後の学会活動展開に向けた提案**（将来構想検討委員会の設置、学会研究プロジェクト創設）など

第3日目（11月28日日曜日）：◆研究発表（ポスター発表を含む）、◆総会、◆「**学生セッション**」であるが、会員の皆さんの御参加をお待ちしています。

さて、如上の『歩み《第2集》』の中で、歴史と原論《歴史、思想、哲学》分野に関する研究動向において、この分野の更なる研究を求める内容が指摘されているが、戦後からのレクリエーション運動のなかで、ややもすると運動（Movement）と活動（Activity）の整理が明確に出来ておらず、社会一般が思い描き、理解しているレジャー・レクリエーションとその本質とのあいだには大きな乖離が生じてしまったままである。改めて、学会の共通言語である「レジャー・レクリエーション」そのものに光を当て、本質的な議論を学会においてもしっかりと進めていかなければならない時代であろう。

その意味からも、本来の本質的なレジャー・レクリエーションをどのように理解すべきか、真の「あるべき論」を求めて、レジャー・レクリエーションに関する既存のメモリーの必要な書き換えと正しい情報・知識の「上書き保存」を求めていくことが必要である。

企業においてもCSR（Corporate Social Responsibility）が強く説かれる時代にあつて、学会も然りで、SSR（Society Social Responsibility）を念頭に、レジャー・レクリエーションの啓発に深く関わり、また、その領域に関する多彩な研究も力強く推進していかなければならない。

会員の皆さんの今後のご活躍も祈念しながら、記念大会会場でお会いしたいと願っている。 ■